

◎山名小学校、教室が不足するが

問 児童数の増加で教室が不足している。今後も増える児童数に対し早急に増設すべきだと思いがどうか。

答 6教室程度の増設を想定し、来年度より準備を進め、平成24年度をめどに取り組んでいきたい。

◎市内で出産できる場所と医師の確保を

問 袋井病院に産婦人科医を確保して、安心して市内で、出産できるようにすべきである。

答 名古屋大や浜松医大に医師派遣を継続して働きかけていきたい。又、1月から常勤小児科医を確保できる見込みとなった。これを契機に再開にむけ鋭意努力していきたい。

◎周南中学校通学路の整備を

問 通学路である平宇10号線の側溝に蓋の設置を。また、太田村松線と上山梨平宇線との交差点に毎日自転車通学している。安全のため横断歩道を設置すべきだ。

答 側溝は水路となっているため、管理者と話し合いを進めていきたい。横断歩道は、県公安委員会に要望しているところである。



校舎増築が予定されている山名小学校

◎歳出配分の推移が語ることは

問 ここ数年間と今後で、政策上どんな変化があるか。

答 都市基盤整備を精力的に行ってきたが、義務的経費の増加が見込まれるので、ソフト事業の比率は必然的に高まっていくことになる。

◎健康文化都市づくりには安心と夢を

問 NPOあさばは、他法人への編入を余儀なくされ、自主運行バスのルート変更で困っている。安心の後退ではないか。

答 新法の人数特例が適用されなくなった。編入に当たっては現施設へ通所できることを支援し、ルートの不備は福祉サービス事業で、補うことを提案している。

問 バイオマスタウン先進地では、米やモミ殻のプラスチック化で地域ビジネスを展開している。こうした夢のある産業を創出すべき。

答 バイオマス活用推進協議会を設置し、廃食油、家畜排せつ物、稲わら・麦わら、木質バイオマスの利活用に取り組んでいる。



米やもみ殻で加工されたプラスチック製品